京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十五錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太

印刷人　松久神一郎

京城西署西小門通（電話六六三）

發行所　京城新報社

雜錄

漢城より（二日）　熊浦逸人

▲咸鏡道地方に在る某外國宣教師は、朝鮮人の政治と宗教とを混同するの弊あるを嘆じ、一は兩者の區別を明かに了解せしめ、教義を誤らしめざらんが爲めに、他は日韓併合を欣び我が天皇陛下の御威德を教徒に周知せしめ、万一にも禍を轉じて殃と爲す勿らしめんと欲し、奔走教誨に努めつゝありと聞く、吾等は斯くあるべく、斯くあらざるべからざるを信ずる事、實に久しかりき、而かも今猶ほ太だ遲しといふに非らず、吾等は人類の幸福の爲めに彼れの事を議す、固より人種の別を立てず、彼れの眼よりすれば國境すら障家の見地に於て上に描きたる畫圖も見ゆべけれは、此際日韓併合を以て一に朝鮮人の福祉として其の擧措を過しめざらんとする事は默と當然の事に屬するながら吾等は其德を頌せざるを得ず

▲吾等の實驗する處に依れば朝鮮の婦人は內地の婦人に比して羞むの癖少し、其の內房に籠居するも、被衣して行くも皆因習に由るのみ否寧ろ男子の壓觀嚴重なるが爲めのみ原來活潑にして社交を好むの甚だしき之を善用すれば內地人との親和を來すこと疑を容れず去れど其の籠居主義被衣主義たる古來の習慣は容易に之れを打破し得べからず唯其が籠居を襲ひ、若くは被衣を脫せしめて交懽せんは內地婦人の力に竣つべきのみ、故に此地に來住する內地婦人はつとめて朝鮮婦人に接近しつとめて親和を圖らざるべからず斯くて新附の姉妹は、新附の兄弟と共に內地人を懷ひ慕しびに至らん、

▲本日、龍山憲兵分隊に荒木隊長を訪ふ、氏曰く、併合條約の發表せられたも、頑冥の徒、不逞の輩等を構ゆる莫きは同慶に堪へず、然る中に萬一にも非違を企てんとするもの無きを保せざれども予は之れを未然に防がんと欲するのみと、氣意昂然たり、吾等謂らく之れ警察の要義にして、雖て併合の目的を達すべく最大必要事なりとす、今や鷄林靜穩なりと雖ども、其靜穩なるべき理由と靜穩ならざるべからざる理由とが相一致したる結果なるを想はずんばあらず、若し一葉搖れて幹枝動くに至らば兄弟の鬩み立ろに破れん、破れて而して後に和するは難きに非らざるも、其の初めより相親むの親みは決して得易からず、因て吾等は荒木大尉の言を壯なりとし、此機會に於て謹むで大久保、明石の兩將軍に敬意を表す

雜報

上古の日韓關係（二）

▲幣原博士の談

▲三韓の起原　此馬韓は辰韓弁韓を併せて所謂三韓と申すのであります、三韓が漸々變遷して馬韓が百濟となり辰韓が新羅、弁韓が任那となつたのであります、其外上邊の支那の領土にして居りました四郡の中から高句麗が起つたのであります、其三韓中では新羅が最も早く國を建てましたが是れは餘程我國と密接なる關係を有して居ります、と云ふは其始祖は日本人ではないかと思はれるのみならず之を輔任した宰相には明かに日本人が居たのであります、新羅が起りまして間もなく高句麗が鴨綠江の上流に起りましたけれども是は突然に起つたのではなくして其始祖は玄朱蒙であります其後溫祚と云ふ人が出て此者が南方に移り慰禮城に都を建てました、これが百濟國の起りであります、此慰禮城と申すは今日の稷山であると云ふ說になつて居りますけれども、併しこれは今日の京城と見る方が正しいかと思はれます、此三の國を總稱して三國と云ふのであります

▲任那の保護　任那と云ふ小國が最も早く我國に交通を開いた事や歷代の我天皇が最も篤く之を保護せられた次第は日本歷史に於て皆人の知るところであります、現に國號の任那と云ふのも日本人の附けた名であつて彼の國では彌洛國と申して居るのであります

▲神功皇后の征伐　前述三國は互に爭鬪攻伐して居りましたので歷代の我朝廷から時に救護の兵を遣はし或は又特に使を出して之を和睦せしめんと計られたことは屢々であります、就中新羅は最も支配に苦み遂に其驕る所神功皇后三韓征伐となりました、併し此征伐のことは彼の國の歷史には絕ゑて無いのであります、但し其前後に日本人侵入のことは屢々見えて居りますが此一事は彼國と我國との歷史の合はない所であります、けれども兎に角當時我軍が彼の國を討つて遂に之を降したと云ふことは事實あつたに相違ない、是れより後三國は我版圖となり每年貢を納めると云ふ例になつたのであります彼の國の歷史には三國と云つてありますが我國の歷史には矢張り三韓と稱して居ります

▲文化の傳來　高句麗も我國の歷史には之を高麗と書いて居ります、我國は嘗に任那を保護したのみならず神功皇后の親征にも任那の都即ち金海に我行政廳を置かれ、之を內宮家と云つて居ります、其の隣りの百濟國も古くから我國の救援を求めたことが度々ありますので、夫れに對し篤く保護せられたのみならず王を擁立するの勢を取つたこともあります從て又彼の國から文化を我國に傳へたのも尠なくありませぬ其顯著なる例を言ひますと第一に王仁の來たことであります、其他佛教を傳へたのも百濟なれば百般の工藝を傳へたのも亦た多くは百濟であります、併しながら百濟に限らず新羅其他の國でも我國を慕ひまして我に歸化し交易に服し遂に純粹の我國人になりましたとは實に數ふるに遑ない程で其詳細なる事は姓氏錄を見ても分ります

朝鮮と紡績原料（添田壽一氏談）

▲稀有の好材料　日韓併合は吾人の久敷期待したる處にして企業不振の今日人心を鼓舞刺戟する上に於て絕好無比の大材料たるべきは敢て多言を要せざるべし左れば多額の資本を擁して投資の途無きに苦める者等は此際渡韓して旺に企業を營むの覺悟無るべからず

▲綿花を栽培せよ　將來日本は工業國たらんとし紡績事業の如きは年々隆盛に赴きつゝありと雖其が原料たる綿花は不幸にして皆是を外國に仰ぎ居れる狀態なるが是れ日本に取りては頗る不安に堪へざる點なり現に先年印度にては原綿花に輸出稅を課せんとの議ありしを聞けり幸にして此制度は當時實現されざりしかど若し實施されたらんには我紡績業は爲に大打擊を蒙るべかりしなり此點に關し吾輩は當業者等が將來と雖も充分警戒して可成綿花を我領土內に於て生產すべきを期し此目的を達する第一着手として先づ朝鮮に綿花栽培事業を試みん事を希望す夫れ斯の如くんば砂糖は臺灣にて米は臺灣及び朝鮮にて又綿花は朝鮮にて石油は越後に於て夫れ夫れ生產するを得べく乃ち原料並に食物が我領土內にて安全に栽培收穫され得るに至らん

文苑

●理想の十五夜　秋草生投

今日は十五夜だ、朝から降つて居た雨が、午後の五時夕方近くに歇つて、空さりげなく澄みわたつた、奧の緣側の机の上には、すゝきといけた瓶と並んで、だんご、餅、芋、柿などが堆かく盛られて月見の用意は十二分に整つたのである、日は暮れて庭の木雫にぬれながら啼いてゐた蜩の聲も聞えなくなつた、あたりが暗くなつて來たが、わざと燈はともさないで、月を待つてゐると、丸い〱まんまるな鏡のやうな月は、徐ろにすぐ離の前の森の上に顯はれた、三十分間程すると向ひ側の泉水の中に、其姿を映した、まん丸の月が空と水とに一つ宛。

講談

大岡政談　越後傳吉　第六十六回　旭堂南陵講

黒崎伴右衛門兩手を膝に置て徐と顔を擧て居つたが伴『フーム』といふ溜息。庄『矢張り不知不識の人殺しでも罪がございませうかナ　伴『大變い事が出來たな、お前さんが平素評判の好い人ならば兎も角、唯さへ重役の方へも庄左衛門、庄藏は詐欺盜人をしたなどゝいふ事が聞ゐて居る、據てゝ加へて思はぬ人殺しとは申しながら逆も免がれる途はない罪ぢやナ　庄『ハイ……ツコで思び付きましたのは逆な事かは知らぬけれども、傳吉に恨がございます　伴『ム、　庄『實は斯々爾々の事を考へまして、傳吉の宅の庭石にまで血の足跡を附けて參りました　伴『フーム』唸つた庄左衛門　庄『モシこの上は貴下の胸一ツで傳吉の奴をば庄藏お梅の人殺しといふ事にして罪に行ひ、彼の家闕所、爾うなれば庄左衛門がモウ一遍浮び上られます、伴右衛門殿、老人のお頼み、聽いて下さい何うか傳吉に積る恨が晴したい、庄藏なり乃公の身が立行くのぢやから何うか伴右衛門殿、後生一生のお願ひこの通りお頼み申すが何うでござらう、お奉行……』黒崎伴右衛門殘らず聽終つて庄左衛門の顔を眺めて居たが、大喝一聲　伴『默れッ　庄『ハッ……』伴『アヽ斯程までの惡人とは知らず、汝の娘と緣を結んだは黒崎伴右衛門生涯の不覺であつた、予は性來邪曲は大嫌ひぢや、唯さへ其方父子の者が詐欺盜人の汚名を附けられて居る際、重役衆へすら拙者面目ないと思ふ折柄、謀んだりやナそれだけの惡事、見下げ果てた奴ぢや庄左衛門、伴右衛門唯今更めて汝の惡事をば吟味いたす、併し汝の娘を妻といたし、惡人の娘の婿となつて居つては同藩の衆へ申譯がない……コレお澪　女『ハイ……』漸う兩手を突いた黒崎の女房、乃ち庄左衛門の娘のお澪　み『ハイ　伴『其方の親の心得違ひぢや、其方には何の罪もなけれど速かに離別いたす、女の子は女親に附くが當然、速かに子供を連れて立去つてしまへ、サ子供二人を連れて庄左衛門方へ引取れい、只今限り離別をいたす、庄左衛門、汝の惡事は必ず屹と取調ぶ　庄『ハイ……デ、ではござるが其處を切望　伴『いふなッ、穢くも汚らはしい大惡人奴、速かに娘を引連れ立退いて與れい』打て變つた伴右衛門の言葉、流石に庄左衛門はアッと驚いて惡い事はさて巧く行かぬもの　庄『ハイ……』再び返す言葉がないから唯悲歎俯向て居ると、側へ寄添たお澪が　み『貴郞、その御立腹は重々御道理でございますが、少しは父の心にもなつてお遣り下さいますやう、實田村に在るとはいへ戸外さへ碌に歩くことが出來ぬやうな日蔭の身體、何どかして父のいふ事を聽て遣て下さいまするやう　伴『エイ汝まで、爾ういふ心得違ひの奴とは思はなかつた、サ行けと申すのにッ　み『ハイ……』最早や致方がない一點濁りなき黒崎の潔白にお澪も庄左衛門も互ひに顔と顔を見合つて今更何と致方なく呆然といたして居る、漸うに涙を拂て起ち上りましたお澪は、寢て居りまする二人の女の兒、姉が十歳妹が六歳　み『サア二人ながら起きて下さい、阿父さまが御立腹であるからモウこのお屋敷に居ることは出來ません、お祖父さまの方へ歸らなければなりません、モウ今宵を限り阿父さまのお側では寢られませぬから、お別れを告げて阿母さんと一緒に行く事にしませう、阿父さまが御立腹ぢや、サアお別れを告げて來なさい』二人の小供は最前から眼を覺まし子供心に聞いて居つたものか、ムク〱と起上り衣服を着更へさせると姉のお初、妹のお靜、二人が伴右衛門の右と左へピタリと座つて可愛らしい紅葉のやうな手を支きながら　初『阿父さま、阿母さまの惡い所は御勘辨を願ひますお祖父さまの惡いのも勘辨して進げて下さい、何うか阿父さまのお側で初も靜も寢られまするやう、阿母さまも、阿父さまも一緒にお側に居られまするやうにして下さいお側を離れまして行くのは否でございます阿父さま　初『阿父さま』廻らぬ舌で妹も共に『阿父さま〱』と縋り付く。

京城新報

寺內將軍逃ぐる勿れ

東電は、誰れが新たに朝鮮總督たるべきかに就て報じ來た、而かも寺內將軍以外の名を指した、同時に山縣副統監は遞信大臣に任ぜられ、後藤男は殖民大臣たるべしとの說も傳へた、副統監の轉任說は姑らく措き、總督の新任が果して東電の傳ふる如くならば、余輩は茲に一言するの必要を認むる。抑も寺內將軍が統監に擬せられたるは久しき以前であつて[illegible]合併の實は、恰も熟したる柿の落を潰さずに拾ひ得たる[illegible]朝鮮人同化事業、經濟の發達[illegible]新附の民を如何に統治するやに就て大なる注意を拂ふてゐるのである、幸に成功すれば即ち可なるも否らざれば列國の嗤笑を招かん、今合併僅かに成れるに於て將軍の退くことあらば、今後の朝鮮を奈何、固より總督の仕事は或意味に於て或は膚り易し、强ちに寺內將軍を要せずとせらるゝやも知れず、去りながら余輩は臺灣に於て樺山、乃木、桂の諸將が迭ひに總督の任に就きしも、故兒玉伯に依て初めて治績の擧れるを見た、故に新領土を處理し、新附の民を統治せんには**政治的手腕**と、軍人としての盛名の兩者を兼ぬるの太だ必要なるを知つた、臺灣既に爾り、朝鮮は地勢人口其他に於て**一層卓越**したる總督をして此地に莅ましむるの緊要なる事情がある、故**兒玉大將**の如き、然らざれば**寺內將軍**の如き、又或る意味に於ては**桂首相出馬**の價値すら無きに非らずだ、若し桂首相の自ら出馬するを許さゞる事情あらば寺內將軍を煩はすの外は無い**內閣**の都合、**內地の事情**等、寺內將軍を**犧牲**に供するは尙忍ぶべきである。余輩の見る所を以てすれば、朝鮮の事、新[illegible]以て一段落を劃すべきだ、[illegible]すれば秩序的に庶僚を率きゐ、[illegible]すれば以つて足るのだ、如[illegible]總督となるも多く憂ふるに[illegible]今日のことは日本の**大陸的政策**を如何に**發揮す**[illegible]、帝國の面目に關はる處實[illegible]のがあるのである、此の[illegible]の朝鮮を去るは、其の**國家に忠誠**なる所以で無い、尙又[illegible]進退とすることは斷じてでき[illegible]三浦觀樹子は**團十郎**は舞臺に永く留まるものにあらずと將軍に涅告せりと聞く、余[illegible]き人の此の無責任なる言に[illegible]得ぬ、王妃事件に失敗した[illegible]傑の言など固より取るに足[illegible]も、假し寺內將軍を以て團十郎とするも、尙ほ演舞は終局を告げ[illegible]散せぬのである、寺內將軍[illegible]しく轟聞を待てる觀客の爲[illegible]總督の任を帶び朝鮮の事を[illegible]である、否らざれば余輩は[illegible]の合併も善美なる結果を收むる能はざるの悔を貽すであらうを。

東京電報

▲稻葉勅使の伏奏

冊封勅使稻葉子爵は今四日歸京直に參內天皇陛下に拜謁冊封式及合併後の狀況に就き伏奏する處ありたり（四日）

▲載洵殿下の出發

鎌倉に御滯在中なる淸國王族載洵殿下には御乘船滿洲里號に黑死病患者發生に就き御渡米期を延期せられ其の間に於て北海道室蘭製鋼所御視察の途に上らるゝ筈なりしが該船の檢疫は完全に執行せられたるより更らに御豫定を變更せられ今四日正午橫濱解纜米國に向はせられたり（同上）

▲機動演習の開始期

本年度九州に於ける各師團機動演習及特別騎兵工兵演習開始日割左の如し

十一月一日より同二十一日迄第六師團 十一月十一日より同二十一日迄第十二師團 十一月十日より同二十日迄第十八師團

▲兼任農相の被免

大浦農相辭職に就き本日小松原文相の農相兼任を免ぜられたり（同上）

▲日野國明氏當選

大阪に於ける衆議院議員補缺選擧は日野、三谷兩氏の間に激烈なる競爭行はれ一時三谷氏優勢なりしも開票の結果日野國明氏當選せり（同上）

▲石川少將の豫備

工兵大佐石川潔太氏は陸軍少將に昇任豫備役仰せ付らる（同上）

伯林電報

▲西班牙の戒嚴令

西班牙國イルオバ府は同盟罷工の爲め戒嚴令を布かれたり（四日）

▲墺伊兩國の妥協

墺國皇帝はイシチルに於て伊國外相ジユリアノ侯と會見の結果墺伊兩國は相互意思交換の結果平和の維持と土耳古を鞏固に爲すべき事に一致し且つ兩國は巴爾幹半島諸國の繁榮に對して同情を有する事を發表せり（同上）

▲土國の豫備召集

土耳古國は希臘國に壓迫を加へん爲め三個軍團の豫備兵を召集したり（同上）

▲獨太子妃東遊說

獨逸皇太子妃が皇太子の極東旅行に御同伴なるべきや否やは目下の處評議中にて其他皇太子の御出發期も未だ確定せず

▲獨太子と淸國公使

獨逸皇太子は伯林に於て新任淸國公使を引見せられたり（同上）

雜報

寺內總督と佛教

寺內總督は此程京城東本願寺別院布教監督龍山嚴雄師に一書を送り朝鮮人の敎化を外國宣敎師に一任するとは好ましからざるにつき出來る限り佛教の力を假りて之を敎化啓發し度く思ふ就ては貴下向後朝鮮にいて採らんとする布教方針の大體を示されたしとの意味を通じたる由にて龍山師は直に長文の回答を發し同時に東本願寺にては朝鮮人布教に力を入るゝ事となりたりと（大阪每日）

各理事官の諭達

併合に關する統監の訓諭に基き各地理事官は夫れ〳〵在留民に對し諭告を爲したるが此中三增馬山理事官の爲したるもの左の如し

今回公布の條約に依り日韓兩國併合せられ領內の人民は自今帝國臣民と爲り我が皇化の惠澤に浴する事と爲れり就ては從來當廳管內に於ける在留者は朝鮮に於ける此の更始一新の時に際し苟も驕慢輕浮の言行を弄することなきは勿論各自慎重の態度を持し新附の住民は即ち我が同胞たることを念ひ之に接するに同情を以てし之を待に友誼を以てし相提攜して盛世の事に從ひ以て國家の隆昌に貢献することに努むることを要す

露國官憲の嚴戒

浦潮方面に在住する不逞の朝鮮人等は韓國が帝國に併合せられたるより非常に躍起となり精銳なる露國式軍銃五百餘挺を買入れ豆滿江を渉りて一氣呵成に京城を突かん抔と敦圖き既に其準備も整はんとせしに計畫の內容露國官憲の探知する處となり直に其黨與全部を引捕ね該銃器を始め一切の兇器を押收して之を燒却せしが尙は彼等が根據地として潛在せる地方は開拓なるが露國官憲は其巢窟を居らんと欲し二箇中隊の步兵を繰出して不逞を戒め且つ嚴重に包圍して苟くも蠢動を許さゞるより彼等は遂に何事をも爲し得ず數日來自暴自棄を起し日々煩悶し居れりと

●外國人と警察事項

併合條約締結の結果として外國人に對する警察權は凡て我が國の法規に依ることとなれば別に問題の起るべき筈なしと雖も專管居留地は當分其儘に置かるゝこと故從來當局者が手を附け得ざりし阿片吸煙者の如き我が刑法の規定に依り相當の處分を爲すは當然なりと雖も其他にチーハー賭買者の如き又は衞生警察の如き隨分煩雜なるもの多々あれば俄かに其の面目を新たにすることは容易ならざることなりと

●土地調査と手續法

土地調査法は既に發布せられたるも尙は之を施行すべき諸般の手續法なきを以て土地調査局にては至急設定の必要ありとし過日來草案中なりしが漸く脫稿せしを以て日々關係部課員を集め逐條審議を凝らし居れり而して遲くも本月中には決定して直ちに發布する豫定

●赤十字本部の今後

日本赤十字社愛國婦人會兩韓國本部は韓國併合後直ちに朝鮮本部と改稱したるが何現行規則中改正の件は其筋の新官制發表次第東京本部に提案申請することゝし目下の處何れも從前の例に依り本支部とも執務し居る由因みに東洋協會韓國支部も同樣朝鮮支部と改稱す

●統監邸の臨時會議

四日は日曜日なるにも關らず午前九時頃より山縣副統監、石塚參與官、明石警務總長、有吉長官以下國分參與官統監邸に參集して臨時會議を開催し諸般の政務に就て審議する所ありたり

●前大臣の資格消滅

前韓國各大臣は內閣の廢止と共に國務大臣としての資格は當然消滅せるも各部の長としての事務大臣は如何と云ふに之れ亦當然の結果として其資格を喪ひ隨つて各部の長官は現任次官之に當るに決せりと

●警務總監部の會議

警務總監部に於ても四日の日曜日に於て各課長並なる高等官等午前より午後三時半頃迄會議室に參集して諸規則制定及び警備事務の打合せをなしたり

●增遣憲兵の到着期

新に朝鮮の警備に充てらるべき增派憲兵百余名は一兩日中釜山着直らに京釜線にて入京明石司令官の訓示を受け京城其他各要地に配備さるべしと

●外國語學校新校舍

中部校洞なる官立外國語學校は校舍の狹隘を告ぐるより先頃來增築工事中なりしが此程全く竣工したるを以て五日より新校舍に於て授業を開始せりと

●新韓民報無期休刊

布哇にて發行せる新韓民報は極力危險思想の鼓吹に努めたりしが時勢の進展は遂に如何ともする能はざるより八月十日第百九十八號に最後の悲鳴を貽して無期休刊する事となれり

●衞生試驗課の移置

內部衞生局試驗課は從來大韓醫院內の一部屋舍に置きたりしが此程來北部三淸洞なる武管學校に校舍を改修して同所に移置したりと云ふ

●統監府の事務繁忙

統監府の現時は過渡期とも云ふ可く万事變遷時代なるを以て府員の繁忙は實に甚く外なく上統監より下傭員に至るまで寢食を忘れて熱心に執務せり

●統監府玄關變更

統監府にては目下增築工事の爲め從來の玄關を使用する事能はざるを以て五日より門內の右側に當る昇降口を臨時玄關に充てたり

●臨時特派員歸社

漢城の政況通信の爲め臨時に入京し居たる荒木東京朝日記者、奇木中央記者、田井大阪朝日記者午前南行列車にて出發せり

●鄕左近軍醫の訃

騎兵第二聯隊附一等軍醫鄕左近輔四郎氏は京城病院に入院中の處本月二日同院內に於て死去さる五日火葬し遺骨は仙臺へ送らる由

宋秉畯氏の時局觀

南山の自邸に籠居せる宋秉畯氏が往訪の通信記者に語れる時局觀及一進會始末に就ての談話要領を左に記す

▲韓皇の英斷 今回合併の經過は豫想以上の好績を收めたり今回の合併が四十年の協約締結の際に比し至極御手輕に行きしは寺內統監の折衝駕馭宜しきを得たるは勿論なるも相手が德壽宮の御隱居ならで世界の大勢に通曉せらるゝ昌德宮陛下なりし事萬々にて李總理大臣以下の輔弼が機宜を過らず李朝最終の柱石たる大任を全ふしたる功績は大に推重すべきなり

▲統監と李總理 世間李首相が一時辭意ありしなど傳へしは全く誤謬なり何となれば機を觀るに敏なる李氏が寺內統監の赴任を以て日本斷行の決行なるを感知せざる筈なく若し自ら難局に當るを欲せざれば統監の赴任前若くは談判開始前に掛冠すべき口實は多々ありしなり彼は伊藤公及び曾禰前統監に對しては盛んに權謀を弄し時に成功したる事もありたり殊に曾禰子の如きは終始彼れに飜弄されたり然れども寺內新統監に對しては最早術策を施すの餘地なく自己の掛引にて合併が統治權の委任にて事濟となるべき問題に非ざる事を十二分に知覺せりされば彼は統監の提示に對し一も二もなく同意したり彼は朝鮮人に珍らしく責任を知る政治家にして一旦決心せば去就を二三にする軟骨漢に非ず此が曾禰統監なりせば如何到底斯くの如き好績は收め得ざりしなるべし予の隱退は時局解決の上に大幸なりき云々

▲一進會始末 一進會は合併の今日最早政黨として存立の必要なければ解黨する事に決定し居れり然れども解散後に於ける會員の始末に就ては大に研究の必要あり是れ幹部の最も苦心せる處なるが會員の大部分は侍天教となるを以て今後は其の方面に働かしむること同時に一進會の附屬實業會を擴張し會員を擧げて實業に轉ぜしむる方針なり然るに目下李會長重態に罹り入院治療中なるが急治の見込みなく會の始末に就ても充分の協議を遂ぐる能はず閉口し居れり余は會の始末つき次第遲くも今年中には東京に赴く考なり云々（電通）

各道の大赦免囚

大赦の盛典に浴し免囚さるべき囚徒は官報到達の日を以て實行さるゝ筈にて隨て交通不便の邊域に在る監獄は多少に遲延を免れず昨五日までに到達せる報告によれば

	既決 男	既決 女	未決 男	未決 女
京城	一四	一	一	一
黃海	六〇	一	一二	一
忠南	四〇	三	〇	〇
忠北	二六	二	〇	〇
慶南	三二	六	三	〇
慶北	一五七	一三	五	〇
全南	三一	〇	〇	〇
平北	一一一	〇	〇	〇
平南	八八	〇	三	〇
咸北	〇	〇	四	〇
咸南	一〇二	一四	三	三
計	六六一	四〇	三一	五

監獄の一大改善

併合と同時に治外法權は撤去せられたれば今後諸外國人にして犯罪ある場合は當然我が監獄に收容せざる可らざるも目下の設備は甚だ不完全にて到底充分なる事を爲し能はざるを以て政府は四十四年度總督府豫算に於て監獄費を增加し十萬圓となし監獄の一大改善を圖るべしと云ふ

官吏二割減は虛說

總督府官制發布と共に從來の統監府及び舊朝鮮政府の官吏は三割方減ぜらるべしと世間一般に傳へらるゝも今信ずべき向の說によれば右は全く根據なき虛說にして前記官吏の殆んど全部は總督府官吏として任用せらるゝことゝなるべしと云ふ

●京城會議所の擴張

京城商業會議所に於ては京龍合併の結果現在の議員數二十四名を三十二名に改め特別議員五名を十名に增員するの議は過日の委員會に於て決定したるが未だ本會議に附するに至らざりしが此程來日韓合併の結果は寧ろ朝鮮側の商業會議所と合併して一大擴張を試みんとの議一部有志の間より起り目下其の研究中なりと云ふ

●釜山漁港の落成期

釜山漁港施設に就ては先程度支部同調查委員會に於て幾多審議の末右設計の大体を具定したるにより目下築造中の釜山稅關廳舍落成同稅關引移次第直に同舊稅關地に建設着手の手筈にて來年末迄には完成の豫定なりと

●神戶法學博士入京

拓殖局の囑托を受け經濟視察の爲め渡韓せし法學博士神戶正雄氏五日午前四時群山より仁川に着し橋本副理事官と共に鹽業等視察の上午後二時廿五分發列車にて入京せり

●松永師團長の出發

既報の如く松永第二師團長吉田參謀外中尉一名は北韓檢閱の爲五日午前九時南大門發南行列車にて龍山より釜山に向つて出發せらる檢閱日數は五十日の豫定なりと

●石塚參與官東上說

總督府官制案を提げて近々上京すとの說ありしが四日の臨時會議は該案編成を終り是を修正にして愈々兩三日中上京の途に就る可しと傳ふ

●會議所聯合會延期

朝鮮各地商業會議所の聯合會議は每年九月下旬京城に於て開催し來りしが本年は都合により十一月に延期したりと

公人私人

▲井上璞（陸軍步兵大尉） 四日入京し京城ホテルに投宿す
▲井上德次郎（陸軍一等主計） 入京中の所四日釜山へ向け出發
▲小林留五郎（同二等主計） 同上
▲小山七郎（平安農銀博川支店長） 歸任
▲堀池常作（辯護士） 四日大邱へ
▲佐藤剛藏（醫學士） 四日平壤へ

▲京城手形交換高▼

九月	金高	枚數
五日	一三三、六五四、七二	三六八

▲仁川米豆取引所▼

▲前場（五日） 十月限一節なし▲二節九圓一十錢▲三節二十錢▲出來高二百石▲十一月限一節八圓二十三錢七錢八錢九錢八錢七錢八錢五錢六錢七錢▲二節二十七錢八錢九錢三十錢一錢三十錢一錢三十錢一錢▲三節二十錢二錢三錢二錢三十錢二十九錢三十錢二十九錢▲出來高八千七百石

▲大阪期米電報▼

▲前場（五日） 九月限寄付十三圓七十八錢止出來不申▲十月限寄九十四錢止九十七錢▲十一月限寄八十錢止八十二錢

▲仁川港出入の船舶▼

▲須磨浦丸 六日小樽より入港
▲筑後川丸 六日長崎より入港
▲日高丸 六日午前十時芝罘へ向出港
▲筑後川丸 六日正午鎭南浦大連行

▲治外法權▼

世間が大分靜かだ、此靜かさはホントーかドウカ▲祝賀會はせざれ、提灯行列はせざれ、合併の出來たのは目出度事だ、而るに此目出度事があつた爲に此頃の樣に人氣が沈み返るとは何のことだ▲成程統監府はナクなる、併し其代りに總督府が出來る、從來統監府や朝鮮政府の役人であつた人達は總督府へ採用される、何をクヨクヨ思ふ事が要るか▲商人の側から云へば差當り新總督府が近き將來に於て散布する金が二千万圓だソレに從來困つて居つた兩班其他へ下賜の公債が三千万圓だ、此元金は使へぬにしても五分利乃ち百五十萬圓は使へる、アレやコレやで將來に於て朝鮮人側の金融が良くなるのは知れた事だ▲加之ならず之から後は內地の資本がドシドシ這入つて來る、東拓なども資金を出す、韓銀も貸出を勉强する、前途は光明許りで暗黑はすこしもない▲以上記したことは常識を持つた者の皆知れるところだ、而るに何を苦んで悲觀するか、記者には悲觀の理由がチットも知れぬ▲前にも言つた如く合併は目出度事だ、此目出度い大出來事があつた後ちをドウカ葬式の後ちででもあるかの如くに考へフサギ込んで居るのは譯の判らない事だ▲寺內總督は本願寺に交涉して朝鮮人間に佛教を布かせんと計畫して居らるゝとは大每の報ずるところだ、モシ本當なら記者は反對する、如何に總督のせらるゝことでも感心なることは排する▲民團が廢されたらドンナ自治体が出來るダローかと空心配をして居る人達が幾らもある、ソンナ人達は臺灣に自治体があるか無いかを調べれば直ぐに判る▲內地人と朝鮮人との商業會議所を一シヨにするの必要がある、山口會頭はドウ思ふか。

●廢官廳整理終了期

[illegible]併合の結果廢止せられたる[illegible]宮內府及上各官衙にも格別の支障を見ずして整[illegible]見ゆ、依て本月中には[illegible]を以て廢務整理委員として其跡始末に從事せしつゝあるが聞く處によれば[illegible]は多少複雜の關係あれば幾分の遲延を免れざるも而かも十月下旬までには終了すべしといふ

●李容九氏病狀不良

[illegible]院中なる一進會長李容九氏は病情兎角捗々敷からず加ふるに近頃來肺患の氣味さへ見へて甚だ憂慮すべきものあるが少しく快方に向はば別府溫泉に轉地療養[illegible]

●公州農林學校開校

本年四月中開校せらるべき筈なりし公州農林學校は此程漸く準備完了したるより愈々來る十日を以て開校式を擧行[illegible]

●衞生局試驗課移置

內部衞生局は京城北部三淸洞に試驗課を移置したりと

●宮內府整理終了期 [illegible]となれる宮內府及表勳院の各官衙は[illegible]を以て殘務整理委員として其跡始末に從事せしつゝあるが聞く處によれば[illegible]上各官衙とも格別の支障を見ずして殘務の整理も見つゝあり故に本月中には[illegible]は多少複雜の關係あれば幾分の遲延を免れざるも而かも十月中旬までには終了すべしといふ

●李容九氏病狀不良 [illegible]院中なる一進會長李容九氏は病情兎角捗々敷からず加ふるに近頃肺患の氣味さへ見へて甚だ憂慮すべきものあるが少しく快方に向はば別府温泉に轉地療養

●公州農林學校開校 本年四月中開校せらるべき筈なりし公州農林學校は此程漸く準備完了したるより愈々來る十日を以て開校式を擧行

●衛生局試驗課移置 內部衛生局は京城北部三淸洞に試驗課を移置したりと

賣藥に對する注意

▽便利だから注意が要る

數多き賣藥の中には隨分如何はしいのがある毒にもならないが藥であつて藥にもならないのがある、併し此れでも精神に慰安を與へる効力はあるのだ、一寸腹や頭が痛む仁丹が清快丸を嚥む口の中が涼しく胸の痞が下る樣な芳芬がする痛が輕くなる、云ふが如く効驗あるものとしてから飲むと直ぐ利くは聊か滑稽だが飲んだ當人は夫れで頗る輕快を感ずるのだから差支へがないが往々にして毒になるのがあるから堪まらない、世間の人は賣藥も馬鹿にならない仲々利くのがあると云ふが夫れは當然だ賣藥だつて藥だもの、併し夫れが醫師の藥に比して利き目が薄いと云ふのは事實だ、例へて云はゞ賣藥は賄の辨當同樣萬人一樣で病氣の程度や体質や年齡等に見界がないから人に依りて分量が過ぎ又は不足するからである、夫れからモ一つは劇、毒藥の使用を限定してあるからだ、本國では或る二三種の他は一度に二服以上用ゐねば利かぬもの許りだ、此の威念が今は一般の人に知れ渡つて居るものだから朝鮮でも然うだと思つて二服以上も一時に服む人があるが夫れは大間違ひである、大なる危險が伴ふ、何んとなれば當地及清國などに輸入せらるゝ毒藥には劇毒藥の配劑が自由にしてある即ち醫師の使用し得る程度迄使つてもるのだ、此の趣旨は醫者が少い地方だから民衆自衛の必要上斯くなければ不可ない又斯くなければ日本賣藥の聲價を維持し華客を求むることは出來ぬ、イヤ獨逸や佛國の賣藥に得意を奪はれて終ふ、日露の戰爭が何うだ日淸戰役の功果が何うだのと藥屋さんがワイ〜騷ぎ立てたのだ、所が醫者さん達が又ムクレ出して然うなつては拙者輩が立行き申さぬと來た內務省も板狹みの態で立ち往生の氣味であつたので藥屋連の策士が醫藥分業と云ふ大きな問題を振り冠つて本紙に肉薄した賣藥藥と云ふが醫師今日の狀態は賣藥屋と同樣だワツショイ〜と押した結果が支那及び朝鮮其の他交通不便なる諸國土への輸出賣藥には使へる丈けの量を使ふことを許すことゝなつた、であるから當地に來て居る賣藥は多く効驗顯著なものだ、大韓醫院や市中の賣藥醫者の調劑よりは場合に依つては餘計に利くこともあるが、其の案配と云ふ奴が六づかしいから安全なのはヤハリ醫師の賣藥の方だ、彼のくだり止めの藥に阿片を使つてあり、熊膽と號してはストリキニー子を以て製へてるものもある時に賣藥は自衛上必要で又尤も便利のものであるが一時の鎭痛や一寸の押へに止るもので決して之れに依つて內臟病を根治さるゝものでないと云ふことは知つて居らねばならぬ現にくだり腹の藥を飲んで阿片中毒を起したものがある、便利なもの丈けに注意が肝要である（むの字）

外人娼婦の發展

長谷川町大通りに

▽貴郎れ遊びなしやい

小料理店、待合其の他の妖魔窟が向ふの大通り大久保辯護士事務所に並びて九箇月間が程に全く市中より影を潛むべしと傳へらるゝ秋に際りて此れは又あらうことかあるまいことか長谷川町金さへ持て御座つたら決して肱鐵砲は紅の軒燈物凄く光らかし戶は開け放ちたる入口に椅子を構へし外人娼婦覺束なの日本語に「れ光來なしやい、れ遊なしやい」と傍若無人に振舞ひ居れるが彼れ等も何んとか取締られたき者也

月下樓主の溜息

▽當て事と何んとか

新町遊廓月下樓は昨年末より寂寞たる有樣にて不景氣の上人氣を失ひたる爲め一部分の娼妓を連れ主人福山伊兵衛は大連にて開業し主婦一人當地にありて營業中經營困難の爲め全部大連に引越さんと福山は當地に來り其準備に着手せしに殘余の娼妓福岡縣人德本ふじ（二四）大阪府人安井なみ（二八）東京府人岡山あか（二七）福岡縣人中野ちか（二九）兵庫縣人井引みよ（二八）の五名は何れも理窟を述べ京城新町目下樓にて營業す可き契約なりしに付他に轉住等は勿論淸國大連抔には思ひもよらぬと全然應諾せず目下悶着を起し樓主福山は青息吐息つく〜浮世を悲觀して居るとか

●朝鮮工夫の亂暴 七月三十一日夜京都府宇治郡笠取村地先喜撰山に於ける第七號隧道工事は東京鹿島組の請負にて其下請負は西本組なるが西本組の工事監督井上某が日本工夫三四名と朝鮮工夫六十餘名を使役し居りしに三十日井上を他方面に轉勤せしめたる所朝鮮工夫は自分等も解雇さるゝものと早合點し卅一日朝より同盟罷工を企て不法の申出でをなし果ては午後三時より各自得物を携へ早や暴行を爲しかけたる急報に接し醍醐警察署より巡查出張し双方間の融和策を講じつゝある事を聞こみたる京都第二疏水工事に從事せる大津の吉井組にては同夜八時頃工夫三十餘名結束し棍棒仕込杖などを携へて同地へ急行せんとせし所を大津警察署にて喰止めたるが西本組の親分西本健次郎の弟良吉は一日早朝より京都の俠客雨島幸助共々同地に出張し朝鮮工夫の重立たる者と會見し之を說得しつゝあり

●眞實の空巢覘ひ 長崎縣高來郡ロノ津村當時住所不定吉田一（二十）は勳八等白色桐葉章を有する者なるが朝鮮へ渡來以來一定の住所職業を有せず各所を流浪し生活に困難を生じたるより惡心を起し七月三日未明龍山桃山町六十番戶より七十六番戶に至る內六十八番戶を除く空家の（淸水周藏の差配に係る）建具襖十二枚障子四枚（代二十圓八十錢）を竊取したるを初めとし同月七日、十二日、十五日、二十二日、二十五日、二十六日、二十七日、二十九日、三十一日八月二日の十一回に同空家內にある建具類數十點（代三百五十圓餘）を竊取し賊物は全部京城龍山の各古物商等に賣却し酒色に費消したる事龍山警察署酒本刑事に逮捕され檢事局に送られしが昨五日京城裁判所に於て懲役一ケ年に處せらる

●掏摸ずに一ケ年 旭町一丁目松井德太郎方愛知縣人平民野田鐵吉（二十）は裁縫職に從事し居る者の如く裝ひ其の實掏摸を業と爲し居る由なるが彼が七月二十九日午後十時三十分南大門驛停車場プラツトホームに於て三等列車に乘込んとする高等法院書記坂井光太郎が洋服上着の外嚢に入れありたる金十八圓五十錢入りの皮製財布を掏盜りたるを警務總監部永山刑事に逮捕され檢事局に送られし事は既報の通りなるが昨五日京城裁判所に於て懲役一ケ年に處せらる

●九錢宛の損害金 本町六丁目二番戶雜貨商池灣店主池田光藏（三十）は淸國人王波基（四七）より常に南大門野菜市場に於て野菜を買ひ居りしも先日牛蒡十八錢の事より惡感情を抱き居たることゝて三日午前八時頃池田は李公善なる者より野菜を買んと思ひ熟覗中王は突然雜談的に池田を突き飛し其機に池田は李の葡萄籠の上に倒れ之れを破損したるより悶着を起し結局南部署に於て池田と淸人と各九錢宛出金せしめ事濟み

●如斯馬鹿が在る 漢江通本町二丁目關根三十郎方雇人安永良助は四日午後三時頃三角地の角理髮店青坂三統一戶の瑞德信なるものと合併の事に付いて大口論を始め其結果良助は瑞德信を毆打したるより龍山署に呼出され說諭の上放還されたり

社告

併合記念號發刊

發刊に關する詳細は追て社告す

京城新報社

●茶入ウイスキー 龍山元町四丁目七十七番戶木村定吉は其以前青木病院の横町に住みし頃より大西萬吉なるものと共謀し藥品を以て混製酒を手造りしウイスキーの中へ茶を混じて販賣なし居る事龍山署の探知する所となり取調の結果尙三百本の不正品を藏し居りし事發覺せしにより之を押取し目下取調中なりと

●小便を打つ掛る 本町一丁目別府組車夫熊本縣平民橋田重雄（二八）が一昨四日午前二時頃南部驛洞を通行中蝸市金姓女（二八）が二階より汚水を投棄したる爲め通行中の橋田の衣袖を汚したるより大に憤慨して南部署に突き出したるも元來惡意ありて爲したるにあらず不注意の爲めなりしと謝罪せるより說諭の上放還さる

●敦盛さんの所罰 南大門外御成町料理店鳴戶事末岡桝吉が酌婦を雇入れたるまゝ屆出をさせず營業させ居る事酌婦松下菊代が自白に因り發覺し菊代は拘留三日に處せられ桝吉は同時に拘引せられし事は既報の通りなるが同樓にて更に永島のぶなる者無鑑札にて營業爲し居る事發覺同樣拘留三日に處せらる

●漢江沿岸の浸水 漢江は二日午後十二時滿潮の爲め十六尺の增水を來し尙其上に先日來の降雨の爲め三日午前七時には二十一尺に昇り麻浦方面に於て浸水家屋二十四戶に及べりと因に舟橋は無事なり

●茫然の靴屋さん 龍山本町二丁目五番戶靴商村田初藏方へ四日午後一時より六時迄の間に忍び入り靴二十足（代一百五十圓）を竊取したるものあり目下取調中

●大赦出獄人死亡 漢城府の囑托に係る大赦出獄人裵福龍は行旅病者として東門外契洞長の保護する所になりしが四日午後五時肺炎病にて死亡し洞長は假埋葬したり

●風俗壞亂委員 福岡縣門司市生れ尾崎こと（十九）は翠代と名乘り昨五日より玉家からヘイ今晩わ

●敷島遊客 三十七人にして消費額百二十五圓七十錢

●青雲兒君に告ぐ 三日の平民文庫に答へを落したるが右は京城商業會議所內にあり入塲は無料と記臆す

●文學士近角常觀 氏は既報の如く南山本願寺の聘に應じ來城六日より五日間左の時割にて各所における佛敎講話會に臨席せらるべしと云ふ

六日 午後一時より南部警察署午後七時半より善隣商業學校△七日 午後二時より愛國婦人會（於南山本願寺）午後八時より一般公衆（於南山本願寺）△八日 午後二時より婦人法話會（於南山本願寺）同八時より京城敎育會へ九日 龍山東本願寺布敎所にて△十日 午後二時より中學校同八時より一般公衆（於南山本願寺）

●廣八一座總評（下）

▽慈善興行中の分

仙春の十種春は是迄聽きたる內の上乘『つま鳥の呼ぶは生あるならひぞや』の邊り滿塲をたんのうせしめたり箕作に注意せよ二日目朝顏宿屋は前日のうれ程にはなけれどたいした聽き劣りなし三日目太十の奥は柄になし斯いふ物を演すは損なり努め〜演しものゝ選擇に注意せよ但し之れは孃のみに限るとは申さず本業素人共皆此心掛け肝要なり、糸の仙平は鐵でも言ふたが若いに能く彈く併し調子の割合には撥が小形なる故糸にハヂかるゝ氣味ありて充分に三味線の本音を發揮する事難く隨て頃日朝鮮日報に誰やらの評した如く冷罵を受くる事あり去れども孃の苦心彈奏は黑人側は諒す、自愛勉强を祈る這般二孃の演藝を聽て南大門外の某々氏等は滿悅し居れると聞く、隅照一座の花形として万偏なく愛嬌を分割して客足を招き込むの一種求引力ある擴は例ながらではあるが床上に形はるゝや急霰の如き拍手中に先代萩御殿を語れり此人座上の恣勢は申分なし然れど總体の行儀を言ふ方面より評せば多少の排難あり之れは今更申さずとも自身工夫ありたし、此人の先代は之を聽く事評者既に二回何日も『梶原樓の奥方から政岡のクドキ』で切るが一度は『飯焚や翁歌』を聽たいと思ふ併し此人には無理かも知れぬ元來孃は詞巧者にして地合得手ならず此邊は鐵路通りの誰かに似通へる點無しとせず、政岡が奥方の歸館を見送りて『跡には一人政岡が奥口覗ひ〜て我子の死骸抱き上げ』を何日も『奥口』云々を拔かすがあれは本文通り演らねば政岡當時の意中を表情する事出來ぬ（琴城投）

目と耳

▲壽座 大阪堀江座の夏休みを利用し大連に出興行を試みたる大島太夫の一行は歸途仁川に立ち寄り三日間興行打ち上げ後直ちに歸阪の筈なりしが當地贔負の勸めを斷り兼ね六日より正味三日間當地に於て開演堀江座秋興行も切迫し居ることなれば一日も延なく釜山にも立ち寄らず歸阪すべしと云ふ其の初日の演し物は左の如し

御祝儀實の入船（竹本登太夫）糸（豐澤猿吉）れ駒才三鈴ヶ森の段（竹本初音太夫）糸（豐澤龍市）忠臣藏三段目殿中の段（竹本組代太夫）糸（豐澤龍市）梅の由兵衛聚樂町の段（竹本里太夫）糸（豐澤龍市）日吉丸三段目小牧山城中の段（竹本組榮太夫）糸（豐澤廣市）艶姿女舞衣三勝半七酒屋の段（竹本大島太夫）糸（豐澤猿治郎、琴同龍市）

●廣八の仁川乘込 當地浪花館にて永らく好評を博せし大坂初下り娘義太夫竹本廣八一座は昨五日仁川竹園館に乘込み花々敷市中を廻り午後六時開演せり一座は例の若手美人揃ひのことゝて贔屓連の入場多く中々の好人氣なりと

今日の運勢

九月六日（舊八月二日）五黃 先負 甲戌 滿△一白 親疎に拘らず厄介世話事多き日とす新事旅行見合せの事△二黑 婚談談議相談連盟話社宴會を擧ぐるに吉尙改革整理及移轉旅行幸先好し△三碧 諸事手控への事金融に關する事業は進んで吉△四綠 分裂し易き日婚談起業開店共同組合相談之を避くべし旅行移轉見合せの事△五黃 新事旅行見合せの事保證引受の煩あり色情の破れを戒しむ△六白 始め窮するも終に通ずる日とす尙起業開店旅行婚談相談委囑に吉△七赤 快欣の日大凡吉婚談養子談雇入れ集會宴會見合せの事△八白 移轉旅行改革整理に吉其他平凡△九紫 巧妙の辭令に迷はさるゝ勿れ其他大凡吉（本町五丁目三一館判斷）

●天氣豫報（自五日午後六時至六日午後六時） 北東風曇

四日（華氏） 最高溫度 七三、四 最低溫度 六六、〇